

【第3号議案(報告事項)】

令和5年度事業計画書 (令和5年4月1日から令和6年3月31日まで)

前期に策定した2050年に向けた長期ビジョン・ロードマップに沿った活動を行う。学会長期ビジョンとして、会員・学会活動の多様性促進、生産技術への事業拡張、国際的な連携強化や情報発信、ICT技術活用を掲げ、各常設委員会で連携して活動する。若手、女性、外国人、支部会員、生産技術者等の育成、支援、連携強化を行い、学会の多様性を促進する。生産技術、カーボンニュートラルに関連した記事の会誌掲載、大会セッション設置、研究部会や先行研究部会設置などを行い、これまでの学術中心の事業から生産技術への事業拡張を図り、生産技術者の学会参加勧誘を行う。小規模な国際集会・フォーラムを開催し海外研究者との交流を促進し、国際連携強化を図り、国際賞設置による本会のプレゼンス向上を図る。学会HPの会員マイページでの会誌の会報記事やシンポジウム、セミナーテキストなどの電子版閲覧を開始するとともに、講演大会、シンポジウム・セミナー等でハイブリッド方式を利用するなど、出版、集会、教育行事、交流等を活性化する。支部においても、二次加工業界の多くを占める中堅企業や維持会員企業とオンラインを活用した無料セミナー、研修会、相談会、出前講座や、工場見学会、軽金属学会企業奨励賞表彰、等々を行い、相互の交流を深める。

[1]研究会、学術講演会等の開催(定款第4条第1項第1号)

1. 春秋大会の開催

1)第144回春期大会 (ハイブリッド開催:現地講演発表、WEB視聴参加可能)

会期	: 令和5年5月12-14日	
会場	: 香川大学 幸町キャンパス、かがわ国際会議場他	
実行委員長	: 田中康弘(香川大学)	
定時総会	: 令和5年5月12日	かがわ国際会議場 対面開催
研究発表講演	: 令和5年5月13-14日	
表彰式	: 令和5年5月12日	
懇親会	: 令和5年5月13日	対面開催
機器・カタログ展示	: 令和5年5月13-14日	
企業招待講演	: 令和5年5月13日	「低CO ₂ 生産技術に関する取り組み」
男女共同参画セッション	: 令和5年5月13日	「働き方改革その後～子育て編～」
市民フォーラム	: 令和5年5月12日	「ジオがわかれば地域は10倍面白くなる」

2)第145回秋期大会 (対面開催:第144回の状況をみてハイブリッド開催を検討)

会期	: 令和5年11月10-12日	
会場	: 東京都立大学 南大沢キャンパス	
実行委員長	: 北菌幸一(東京都立大学)	
研究発表講演	: 令和5年11月11-12日	
表彰式	: 令和5年11月10日	
懇親会	: 令和5年11月11日	
機器・カタログ展示	: 令和5年11月11-12日	
企業招待講演	: 令和5年11月11日	
男女共同参画セッション	: 令和5年11月11日	
市民フォーラム	: 令和5年11月10日	

2. シンポジウム、セミナー、見学会等の開催

参加者の利便性を考え、オンライン、ハイブリッド方式により、以下を開催する。また、オンライン開催したシンポジウムやセミナーの講演録画のアーカイブ化による会員サービス・有効利用方法を検討する。

- ・第128回シンポジウム「アルミニウムのアップグレードリサイクル技術」 (令和5年5月)
- ・第129回シンポジウム「接合関係」 (令和5年7月)
- ・第130回シンポジウム「軽量車両構体の信頼性を高めるための材料評価技術～難燃性マグネシウム合金を事例として～」 (令和5年9月)
- ・第131回シンポジウム「水素社会を支えるアルミニウム合金」 (令和5年12月)
- ・第35回軽金属学会セミナー「マグネシウム合金の基礎技術」 (令和5年未定)
- ・軽金属基礎技術講座「アルミニウムの製造技術」 (令和5年11月)
- ・見学会: 日本車輛製造株式会社 (令和5年未定)
- ・第32回軽金属セミナー「アルミニウム合金の組織—入門編(状態図と組織)」第13回 (令和5年12月)
- ・第33回軽金属セミナー「アルミニウム合金の組織—中級編(時効析出)」第12回 (令和6年1月)
- ・第34回軽金属セミナー「アルミニウム合金の組織—応用編(加工・熱処理による組織変化)」第10回 (令和6年2月)
- ・中堅企業向けセミナー、講習会(支部単位で実施)

[2]国内外における研究協力・連携の推進(定款第4条第1項第2号)

1. 国際交流

1)国際賞の創設

海外との連携強化、海外への情報発信による本会のプレゼンス向上を目的とした国際賞創設を検討する。授賞した海外の研究者・技術者を通じた海外交流活性化策も検討する。

2)ALMA(Asian Light Metals Association)

ALMA Forum & Meeting 2023 を開催し、「環境、エネルギー、持続可能な開発」をテーマとし、日本、中国、韓国、台湾、オーストラリアから軽金属の学術研究・技術開発に関する動向や最近のトピックスを紹介する。また、各国代表との「アジア地区の軽金属関係の研究者・技術者のネットワークづくり」に関する覚書の調印を行う。アジア地域における更なるネットワーク強化のため、タイ、インドのALMA 参画を検討する。

3)タイ技術講習会

9月6-8日にTISTR(Thailand Institute of Scientific and Technological Research:タイ国立科学研究所)と共催でタイ日系企業のタイ人スタッフの技術レベル向上を目的に、日本で毎年開催している「軽金属基礎技術講座」をベースに2日間のダイカスト、鑄造、圧延、押出、熱処理、鍛造、板成形接合など技術講習を実施する。3日目は工場見学を実施し、講習で学んだ内容の実際に触れる機会を提供する。

4)学会の国際化、国際連携、国際ワークショップ

国際ミニワークショップを開催し、海外の研究者と取り組んでいる共同研究の成果などを広く紹介すると共に関連分野の研究者とディスカッションする機会を創出し、軽金属に関連する国際連携活動の一助とする。また、3回目の「欧州最大の応用研究機関Fraunhoferによる産学連携の仕組み及び最新の応用研究」と題した国際ワークショップを開催し、意見交換を行う。

2. 産学官の連携

参加会を年2回開催し、産学官の密接な連携のもとに、軽金属の将来に対する意見交換を行い、特にユーザー側からの助言を得る。7月には昨年中止した株式会社IHI横浜事業所の「つなぐラボ」、オープンイノベーション推進と実験機能の一体化した「IHIグループ横浜ラボ」の見学と講演会を、11月は見学会、あるいは講演会開催を計画する。

3. 他学協会との連携

日本学術会議、材料連合協議会幹事会、材料戦略委員会、日本工学会等と連携を保つとともに、軽金属奨学会、日本金属学会、日本鑄造工学会、日本塑性加工学会、日本材料学会、日本鉄鋼協会、日本機械学会、日本アルミニウム協会、日本マグネシウム協会、日本チタン協会、日本チタン学会、軽金属溶接協会など、他学協会との講演発表、シンポジウムの共催、協賛などの協力を積極的に行う。また、男女共同参画委員会では男女共同参画学協会連絡会の夏の学校、シンポジウムに参加し、軽金属学会紹介パネル、軽金属製品展示などを行う。軽金属溶接協会とは溶接・接合関連の若手研究者奨励のため、春秋講演大会での優秀ポスター発表表彰を継続実施する。また、令和3年度に軽金属奨学会の協力を得て始めた共同刊行誌Mater. Trans.のインパクトファクター向上を目的とした、投稿助成事業を継続し、内外の著名な研究者の解説論文投稿勧誘、選考を行う。

[3]学会誌、学術図書等の刊行(定款第4条第1項第3号)

1. 会誌「軽金属」の刊行

本年度は第73巻4-12号、第74巻1-3号までの12冊を刊行する。73巻5号は「アルミニウムの諸特性に及ぼす水素の作用」特集号を、73巻12号は「アルミニウム合金の高強度化」特集号を、74巻2号は「マグネシウム合金の信頼性評価手法に関する最新研究動向」特集号をそれぞれ刊行する。また、会誌「軽金属」の送付不要の会員に対し、4月より会報部分の学会HP会員マイページでの無料閲覧サービスを開始する。

2. 研究部会報告書の刊行

終了研究部会で刊行が遅れている2研究部会(アルミニウムの凝固・微細化・清浄化研究部会、アルミニウムの再結晶集合組織形成モデル化研究部会)と前期終了した4研究部会(アルミニウム製造副産物のアップサイクル研究部会、中・高温域におけるアルミニウム合金の機械的特性に関する研究部会、アルミニウム溶湯による耐火物の損傷プロセス研究部会、高強度アルミニウム合金研究部会)の成果報告書を刊行する。

3. 研究部会報告書、シンポジウム・セミナーテキスト、概要集の電子書籍刊行、学会HP会員マイページでの無料閲覧

第135回秋期大会から開始した大会概要集の電子化を第144回春期大会、第145回秋期大会も継続する。また、オンライン開催したシンポジウムやセミナーの講演録画・テキストのアーカイブ化を図り、会員サービス・有効利用方法を検討する。会員特典として、6月より研究部会報告書やシンポジウム・セミナーテキストなどの刊行物の学会HP会員マイページでの無料閲覧サービスを開始する。

[4]研究及び調査の実施(定款第4条第1項第4号)

1. 研究部会

令和5年度開始の3研究部会(アルミニウム板圧延におけるセンシング技術研究部会、アルミニウム溶湯による耐火物の劣化因子研究部会、中・高温域におけるアルミ合金の変形解析の高精度化に関する研究部会)を加え、下表の合計13の研究部会で活動する

	研究部会名	課題
1	押出材組織に起因する欠陥検討部会	組織の違いにより生じる表面欠陥、機械的特性のばらつきに対して押出加工条件や工具形状で改善が図れるか否かの議論に用いることができる数値シミュレーションの開発を進める。用いる組織予測式の開発には、各種アルミニウム合金の組織変化の特性を

		把握する必要があるので、組織分析の実験も並行して進める。
2	アルミニウム板圧延におけるセンシング技術研究部会【新設】	製造コストの削減・省エネ活動や少子高齢化、人手不足問題に対応するための手段として、属人性排除、省人化、設備・機械の自動化対策が急務となっている。本部会ではアルミニウム圧延における各種計測機器・センサーに焦点を絞り、各社の活用・改善事例の紹介とあるべき姿と現状との乖離について議論し、最終的にはデジタル技術を活用した圧延機・付帯設備のスマート化につながる研究部会としたい。
3	アルミニウム中の水素と材料物性	アルミニウムおよびアルミニウム合金の特性向上に焦点を絞り、アルミニウムに過飽和に固溶する原子状水素とそれが分子状水素として析出したポアやプリスターなどのマイクロ欠陥の生成、成長および消滅、およびそれらがアルミニウムの材料物性に及ぼす影響を実験やシミュレーションにより評価・解明する。これをもとに、水素や水素に関連するマイクロ欠陥を制御することによる特性改善の可能性を議論する
4	アルミニウム接着接合研究部会	本研究部会では、アルミニウム材の接着特性、とりわけ長期信頼性が確保できることを念頭に置き、①アルミニウム素材の表面処理と接着現場での前処理による表面性状と接着メカニズムの解析、②劣化を模擬する試験条件の検討と標準化、③耐久性劣化メカニズムの解析、④劣化予測技術への足がかり、等を検討する。
5	汎用型高性能・高信頼性マグネシウム合金研究部会	汎用性の高い合金(資源偏在性の少ない安価な、かつリサイクルが容易な合金)を対象として、その性能・使いやすさを継続的に改善していく。構造部材としての信頼性(クリープ特性、耐食性、疲労特性等)や、評価手法の確立などにも焦点を当てる。
6	加工熱処理工程における動的／静的組織形成予測部会	組織形成予測技術を発展・高精度化させるべく動的析出挙動のモデル化および結晶粒成長挙動のモデル化を目指し、我が国のアルミニウム製造技術に貢献する材料組織形成シミュレーション方法を探索する。
7	中・高温域におけるアルミ合金の変形解析の高精度化に関する研究部会【新設】	前研究部会ではアルミニウム合金 A6063の550℃近辺の圧縮試験法の検討およびアルミニウム合金板材の引張曲げ変形での変形抵抗式の構築などを行ってきた。高温下では端部の潤滑プールなどを考慮したが、圧盤一試験片間の摩擦の影響や温度差による材料内部のひずみ・温度の分布などの問題が解決できていない。これを解決するにはこれらの影響をさらに軽減する新たな試験方法の開発、もしくは解析における補正の方法について詳細に検討する必要がある。
8	アルミニウム溶湯による耐火物の劣化因子研究部会【新設】	アルミナ-シリカ系耐火物の劣化因子に関する理解を深め、当該分野の開発に係る新たな知見を蓄積する。従来、十分に評価されていなかった溶湯流動による耐火物溶損、アルミナ質以外の酸化物、非酸化物系耐火物の劣化挙動も調査対象に含まれる。将来的なゼロエミッション電源を鑑み、いずれの評価も電気抵抗加熱を基本とする。
9	LPSO/MFS構造材料研究部会	ミルフィーユ構造(MFS構造)は、Mg合金のみならずAl合金やTi合金においても形成される可能性が高く、軽金属材料に革新をもたらすことが期待される。そこで、軽金属材料を中心にLPSO構造やMFS構造を持つ新物質の創製を試みるとともに、その構造とキンクの制御により高強度の軽金属材料の創成を試みる。
10	マテリアルズ・インフォマティクス研究部会	データベースを中心としたプロセス・材料組織・材料特性の相互の関係性を機械学習により分析するシステムの検討および開発を行い、これらの技術を軽金属材料の研究・開発に適用することを目指す。尚、本研究部会では実験データの収集・分析に重点を置き、補完的に理論計算を行う。
11	アルミニウム合金のひずみ速度感受性モデル化研究部会	新しい測定法、精度を議論し、これまでのデータの見直し、新規データの取得を行うこととともに、材料組織と力学特性との関係を明らかにし、成形や衝突のシミュレーション高精度化のため、ひずみ速度感受性に関する材料モデルおよびパラメータの適正化を行うことを目的とする。
12	6000系アルミニウム合金の相変態挙動に関する研究部会	二段時効の負の効果など工業的にも問題となる本系合金特有の諸現象についての共通理解を図り、その後、複数のクラスタを考える必要性や多くの種類の析出相が出現する理由、ナノクラスタの原子レベルでの形成挙動やβ'相との関係性などについて、先進的な解析装置と広範な計算科学を組み合わせることで明らかにすることを目的とする。
13	7000系アルミニウム合金の時効硬化挙動研究部会	焼入れおよび時効条件が微視組織や強度、耐SCC性へ及ぼす影響について、大学および企業の最先端の研究技術の集結により、電子論を含む新たな視点から検討し、時効硬化メカニズムの理解を達成することを目的とする。

2.先行研究部会

研究部会候補案件の可能性を探るための調査、研究を実施し、その結果に基づき、研究部会の発足可否の判断を行うことを目的として新設された先行研究部会制度に応募した下表の6部会が活動する。生産技術を扱う先行研究部会は企業の生産技術担当者が参画できる場を提供し、生産技術関係の会員増強を図る。

	先行研究部会名	課題
1	サーマルマネジメント材料技術先行研究部会	本技術部会は、生産技術系部会として、熱エネルギーに関わるさまざまな問題を取り扱うサーマルマネジメント材料と軽金属との関わりを明確化し、アルミニウムをはじめとする軽金属材料の新用途開発への展開の足掛かりを明確化することを目的とする。展開

		分野として、1. 放熱材料、2. 断熱材、3. 熱エネルギー変換材料、4. 環境問題への対応を想定し、部会立ち上げに向けた具体的なプランニングを行う。また、研究や開発に限定するのではなく、幅広い技術的課題に取り組んでいく。
2	アルミニウム屑の固相選別技術先行研究部会	アルミニウムは新地金製造時の CO ₂ 排出量が非常に多いことから、スクラップを溶解し再生するリサイクルが非常に重要となっている。スクラップ利用でもっとも問題となるのは、アルミニウム以外の金属の混入やアルミニウム合金が混合されることによる不純物元素の増加であり、それを抑制するためにはスクラップ(固相状態)で適切な選別を行うことが必須である。本部会では、スクラップ及び選別機の情報を整理し、固相選別における課題を明確にする。そして適切な選別方法の選定基準や新たな選別技術の基礎につなげることを目的とする。
3	次世代アルミニウム溶解技術先行研究部会	アルミニウムの溶解には重油や LNG 等の化石燃料を用いるのが一般的である。一方、今後カーボンニュートラルに向けては CO ₂ の発生しない溶解方法を採用していく必要がある。溶解燃料として水素やアンモニア、電気等が提案されているがそれらを用いた時の被溶解材や炉体への影響、その他の導入における課題などが明確とは言えない。非化石燃料の利用推進は、アルミニウム業界全体で取り組むべき課題と考えられる。本部会では各溶解方法導入の基礎とすべく、情報を精査し課題を明確にすることを目的に活動を行う。
4	H ₂ 貯蔵用アルミニウム合金先行研究部会	CN 社会を実現するための手段として、H ₂ 利用技術の開発が進められている。アルミニウム合金は、優れた低温での機械的特性、耐水素脆化特性を有することから、H ₂ 貯蔵用材料として使用されている。しかし、これまでに使用実績のある合金は少なく、また特に高圧下での使用においては、使用が認められている合金は限られている。そこで、さまざまな用途における水素環境下での使用に適したアルミニウム合金を選定し、それらを使用する上で必要な評価手法等について検討する。
5	アルミニウム(合金)の不純物制御先行研究部会	リサイクル材の活用においては、①アップグレードリサイクル、②水平リサイクル、③Crossover alloy化などの検討が進んでいるが、有効性・効果を見据えて、最適な手法を確立していくことが必要である。そのなかで、アルミニウム合金中の不純物元素の影響の低減が最重要課題である。機械的特性と同時に、アルミニウム(合金)の物性に及ぼす Fe, Si の影響を明らかにし、物性制御のための固溶 Fe ならびに Al-Fe 系、Al-Fe-Si 系化合物の制御が必要である。本部会では、リサイクル材活用のために、不純物元素低減技術と、機械的特性ならびに物性への不純物元素の影響に係る技術検討を実施し、「アルミニウム(合金)の不純物制御」における課題を調査する。
6	溶解工程における不純物低減技術先行研究部会	アルミニウム市場屑を使って再生する際、様々な不純物元素が展開の足かせとなっている。結晶分別や真空蒸留などの専用の設備を使う以外に、製造現場の溶解技術、溶湯処理の範囲で、不純物元素をある程度低減することが可能と思われる。そこで、生産技術的に微量不純物を低減させることが可能な手法を調査、検討する。これにより実用化に向けての課題を明確化し、次の研究部会の実施内容を決める。

3. 日本アルミニウム協会とのロードマップ更新協業

日本アルミニウム協会「アルミニウム技術戦略ロードマップ」改定に合わせ、掲載した軽金属学会で作成したサイエンスロードマップを更新する。

[5] 研究の奨励及び研究業績の表彰(定款第 4 条第 1 項第 5 号)

1. 研究・業績の表彰

1) 第26回軽金属学会賞、2) 第25回軽金属学会功労賞、3) 第21回軽金属功績賞、4) 令和5年度軽金属論文賞、5) 令和5年度軽金属論文新人賞、6) 第58回小山田記念賞、7) 第46回高橋記念賞、8) 第41回軽金属奨励賞、9) 第22回軽金属躍進賞、10) 第15回軽金属女性未来賞、11) 令和5年度軽金属希望の星賞、12) 軽金属学会企業奨励賞の選考および表彰を行う。表彰式は、1)-3)は第144回春期大会の令和5年5月12日に、4)-10)を第145回秋期大会の令和5年11月10日に行う。11)は令和6年2月末までに表彰楯を各大学へ送付し、卒業式・修了式など相応しい時期に表彰する。12)も年度末に各支部にて行う。また、春秋大会において、それぞれ優秀ポスター発表賞、優秀英語ポスター発表賞の表彰を行う。

[6] その他、本学会の目的を達成するために必要な事業(定款第 4 条第 1 項第 6 号)

1. 人材育成

大学オープンキャンパスへの軽金属製品供与・貸与による啓蒙企画、軽金属科学実験室WEBサイトの実験事例拡充、担当教員・小中高生対象の工場見学会、大学学生への維持会員企業採用情報を提供するWEBサイト(ライトメタルリクルート)運営、WEBサイトの研究室/研究機関紹介、アルミニウムの製造工程、バーチャル工場見学の掲載件数拡充に加え、対象を小学生まで拡大し、WEBサイトから情報発信を行う。日本アルミニウム協会の協力のもと、維持会員企業のインターンシップ募集情報のWEB掲載を実施する。また、各支部においては講演会・ポスター発表(高校生も含む)など、若手人材育成に関わる事業を実施する。また、企業の生産技術者の表彰制度検討を行う。

2. 男女共同参画委員会(若手の会、女性会員の会)

春秋大会時に、若手の会、女性会員の会を開催する。春秋大会会期中に男女共同参画セッションを開催し、軽金属学会の男女共同参画に寄与する啓発、普及活動を実施する。第144回春期大会では、「働き方改革その後～子育て編～」をテーマ

としたパネルディスカッションを実施し、子育て中のパネラーと子育てを通じた働き方改革を討議する。第145回秋期大会では若手会員向けの企画実施を検討する。これらを通じて、若手会員、女性会員の増強につなげていく。

3. 中堅企業R&D支援

中堅企業の技術開発を支援する「中堅企業R&D支援プログラム」を実施する。各支部の公設試の協力を得て、中堅企業との交流を深め、当会の認知度を高め、支部セミナー、企業見学会、WEB技術相談室、研修会、出前講座などにより、中堅企業の人材育成や課題解決の支援を行う。また、春秋講演大会においても、企業交流会・企業招待講演を実施し、二次加工、ユーザー企業と情報交換を行う。優れた製品開発、技術開発を行った中堅企業の企業奨励賞表彰も実施する。

4. 支部活動

1)北海道支部

- | | |
|----------------------|---|
| 1. 総会・役員会・運営委員会・支部会合 | ①支部理事会、支部評議員会(1回) |
| 2. 講演会等 | ①支部講演大会 令和5年10月(札幌)
②講演会、他学協会支部講演大会等への協賛 |
| 3. 人材育成 | ①若手育成支援事業 |
| 4. 表彰関係 | ①学生優秀講演賞
②軽金属希望の星賞一次選考、推薦 |
| 5. 維持会員加入勧誘活動 | ①訪問活動継続 |

2)東北支部

- | | |
|----------------------|--|
| 1. 総会・役員会・運営委員会・支部会合 | 役員会(2回) |
| 2. 講演会等 | ①主催講演会(2回)
②共催・後援行事(3回) |
| 3. 人材育成 | |
| 4. 表彰関係 | ①高橋記念賞推薦
②軽金属希望の星賞一次選考、推薦
③軽金属学会賞、軽金属学会功労賞推薦 |
| 5. 維持会員加入勧誘活動 | ①イブニングセミナー開催
②軽金属学会企業奨励賞推薦 |

3)関東支部

- | | |
|----------------------|---|
| 1. 総会・役員会・運営委員会・支部会合 | ①支部運営委員会(4回) |
| 2. 講演会等 | ①第145回秋期大会(東京都立大学)の実行援助
②工場見学会 |
| 3. 人材育成 | ①若手研究者講演発表会、特別講演会 |
| 4. 表彰関係 | ①高橋記念賞推薦
②軽金属学会功労賞推薦
③軽金属希望の星賞一次選考、推薦
④関東支部功労賞選考 |
| 5. 維持会員加入勧誘活動 | ①セミナー、訪問活動継続 |

4)北陸支部

- | | |
|----------------------|---|
| 1. 総会・役員会・運営委員会・支部会合 | ①定例幹事会(2回) |
| 2. 講演会等 | ①春期講演会
②秋期講演会 |
| 3. 人材育成 | ①幹事研修会
②若手育成支援事業 |
| 4. 表彰関係 | ①高橋記念賞推薦
②軽金属学会功労賞推薦
③軽金属希望の星賞一次選考、推薦 |
| 5. 維持会員加入勧誘活動 | |

5)東海支部

- | | |
|----------------------|--|
| 1. 総会・役員会・運営委員会・支部会合 | ①総会
②理事会(3回、第1回は運営委員会も兼ねる) |
| 2. 講演会等 | ①講演会(1回)
②研究部会(航空機材料部会) |
| 3. 人材育成 | ①若手ポスター発表会、
②若手の会(軽進会)
③女性会員の会
④中・高生向け工場見学会 |
| 4. 表彰関係 | ①高橋記念賞推薦 |

- 5. 維持会員加入勧誘活動
 - ②軽金属希望の星賞一次選考、推薦
 - ③軽金属企業奨励賞推薦
 - ①支部セミナー
 - ②TECH Biz2024: 支部活動展示、講演会

6)関西支部

- 1. 総会・役員会・運営委員会・支部会合
 - ①支部理事会(2回)
 - ②支部幹事会(2回)
- 2. 講演会等
 - ①支部シンポジウム
- 3. 人材育成
 - ①関西軽金属サマースクール
 - ②若手研究者・院生による研究発表会
 - ③大学院生フィールドワーク助成プログラム
- 4. 表彰関係
 - ①軽金属学会功労賞推薦
 - ②高橋記念賞推薦
 - ③軽金属希望の星賞一次選考、推薦
 - ④軽金属企業奨励賞推薦
- 5. 維持会員加入勧誘活動
 - ①勧誘活動継続
 - ②出前講座

7)中国四国支部

- 1. 総会・役員会・運営委員会・支部会合
 - ①役員会
- 2. 講演会等
 - ①第15回支部講演大会(鳥取大学)
 - ②研究会(2回)
 - ③第144回春期大会(香川大学)実行委員会支援
- 3. 人材育成
 - ①若手フォーラム、高校生のポスター発表(岡山)
- 4. 表彰関係
 - ①軽金属学会功労賞推薦
 - ②軽金属希望の星賞一次選考および推薦
 - ③高橋記念賞推薦
 - ④支部賞(優秀講演賞、研究・開発奨励賞、技術賞、奨励賞)表彰
- 5. 維持会員加入勧誘活動
 - ①中堅企業支援事業、講演会開催
 - ②訪問活動継続

8)九州支部

- 1. 総会・役員会・運営委員会・支部会合
 - ①役員会(2回)
 - ②例会(2回) 九州大学、(株)神戸製鋼所長府製造所
- 2. 講演会等
 - ①合同学術講演会共催 6月熊本大学
- 3. 人材育成
 - ①若手研究発表会 7月
 - ②中堅企業支援支部セミナー 7月、2月
- 4. 表彰関係
 - ①高橋記念賞推薦
 - ②軽金属学会功労賞推薦
 - ③軽金属希望の星賞一次選考および推薦
 - ④合同学術講演会講演大会若手ポスター賞表彰
- 5. 維持会員加入勧誘活動
 - ①訪問活動継続
 - ②中堅企業支援支部セミナー